

### Halo! ジャカルタ



### まんが教室

長野市の信毎本社で8月8日に開いた「ハロー！ ジャカルタ・まんが教室」は、小学生18人が参加して、インドネシアの首都ジャカルタでまんが学校を開いている茶花ぼこさん(44)＝長野市出身＝からインドネシアのまんが事情や、まんがを描くテクニックを教わりました。参加できなかったみんなに、プロのまんが家・茶花ぼこさん直伝の「5頭身」の描き方を紹介します。実力を上げてイラストを送ってね。



茶花ぼこ先生と集合写真

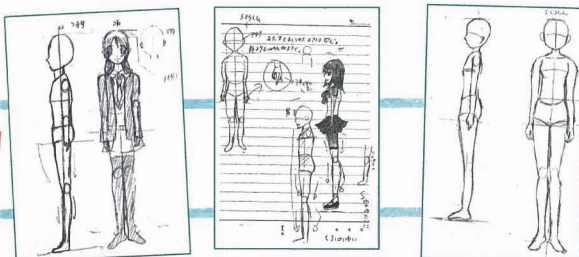
8月13日付のこども新聞にも3人のこども記者の報告とみんなの絵がのってるよ！



### ナイス

### こども記者のチャレンジ！

- 右：戸澤美優記者(須坂市5年)
- 中央：熊岩侑生記者(高山村6年)
- 左：井上裕記者(長野市6年)



### Point!

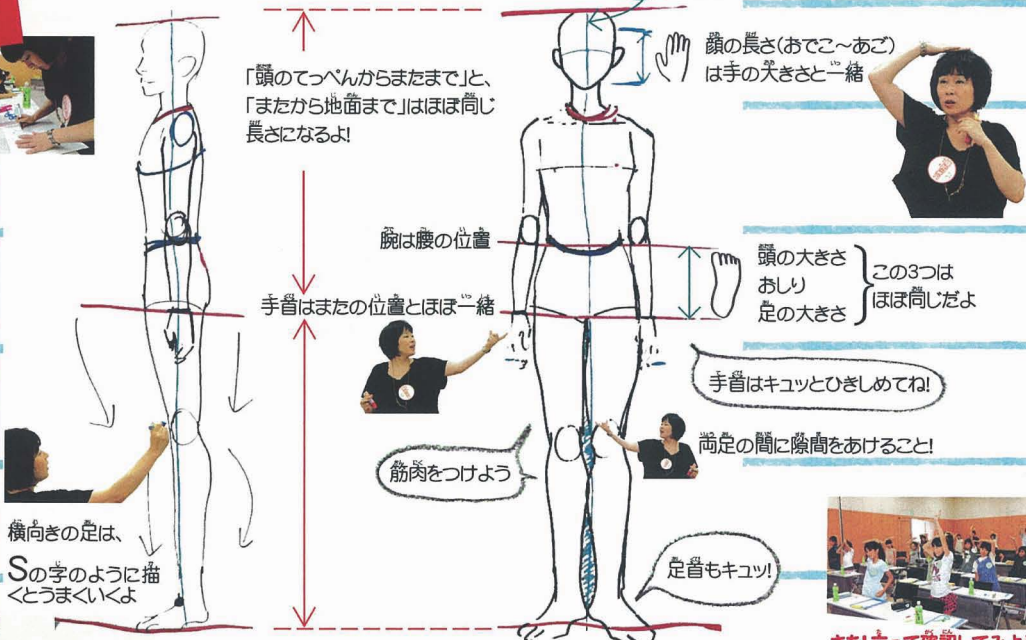
顔や体の中心に線を引くとバランスがとれるよ！この線をアタリと言います。

### 茶花ぼこさん直伝！

### 《5頭身の上手な書き方》

いつもより上手にかけた！  
宮尾夏綺記者 長野市5年

私が一番心に残ったことは茶花ぼこさんに、まんがの基本的な書き方を教わって、自分でかいてみたことです。私は、いつも人をかくとき、手の長さが短くなったり、全体的にバランスが良くありませんでした。でも、茶花ぼこさんの説明の仕方などは分かりやすく、いつもより上手にかけました。顔と手の大きさはだいたい同じとか、頭からまた、またから足までの長さはだいたい同じとかなど、他にもいろいろ教えてもらいました。このことを、頭の中に入れておいて、もっともっとまんがが上手になるように練習したいです。



さあ！立って確認してみよう

## Halo! ジャカルタ こども記者リポート

—インドネシアの子どものたちの絵を見ました—

ないものをかけるジャカルタの子  
丸山東乃記者 長野市6年

ジャカルタには、着物やゆかたはないのに、ジャカルタの人にとってはもじょうずにかいています。そして、ジャカルタには冬がないので、みんな冬にあこがれて、葉のない木や、雪をそうぞうしてかいていました。他にも、コンピューターでかいた絵や、色えんぴつやコピックで色をぬったりした絵をみたりしました。自分たちの身のまわりがない物をかいてしまうのは、すごいと思いました。



↑信毎1階のまんが展を見学



シフアちゃん(10歳)



カニヤちゃん(12歳)



カリスタちゃん(12歳)

日本のまんがが大好き  
湯本鈴花記者 中野市5年

茶花ぼこ先生は、約150人を教えています。女の子が8わり、男の子が2わりだそうです。インドネシアの子たちは、まんがをこくぬります。むらさきなどの色が好きだそうです。日本の子は、パステルカラーが好きなんだそうです。インドネシアの子は、日本のまんがが大好きで、まねたりします。ゆかたや日本のようなミニスカートのせい服はインドネシアには無いのに、まんがにかいたりします。なので、卒業してから、日本のせい服を着るために、日本にりゅう学したりする人が増えているそうです。



## みんな最初は一年生

ここだけのヒミツ！  
ベテラン記者の失敗談



25才目 (入社22年目) 報道部のテラス 吉岡正幸記者

今も忘れぬ入社1カ月の教訓

入社して1カ月で、会社の車を「廃車」にしてしまいました。

初任地は佐久支社。その日は午前中から浅間山の山開きの取材でした。寝坊したのか、道に迷ったのか、よく覚えていませんが、「遅れるかもしれない」と少し焦って未舗装の山道でスピードを出し過ぎました。

カーブを曲がりきれず山側にぶつかりそうになり、急ハンドルを切ると車は谷側へ。すぐ立ち木に衝突して止まりましたが、強い衝撃で運転席側の屋根がつぶれフロントガラスが割れました。体は痛くないが、意識はしっかりしているか。「解の公式」(中学の数学で習います)を言えたのでひとまず安心しました。

車載の無線機で支社に報告すると「了解。取材を続けてください」。こちらの声がよく聞き取れなかったため、の応答だったと後で知りましたが、そのときは「取材は何事にも優先するんだな」と納得、通り掛かった車に乗せてもらい登山口に向かいました。

先輩記者と合流して、記念登山にしばらく同行して取材を終えました。帰途、壊れた車を見た先輩は驚き、電話を探して支社に連絡してくれました。私は検査のためそのまま病院へ。「異常なし」でしたが、車を見た警察官からは「シートベルトをしていなかったら大ごとになっていただろう」と指摘されました。

あれから21年。「解の公式」は思い出せませんが、気持ちのゆとりとシートベルトの大切さは忘れません。